

ぎんれいゆ会・平成三十一年四月十二日（第二百六十回）

墓穴を出でて一尺かしこまる主宰 細野恵久 福祉3期

春光や島に連理の楠ありぬ 増田和子 食文1期

水温む民話の里の河童淵 三枝邦光 美工5期

鉢伏の淡き山なみ花こぶし 國永靖子 音文6期

ふらここに過る邦画のラストシーン 猿橋二三雄 福祉8期

枕みな平成最後よこの春は 加藤善巳 美工8期

ありし日の薫塚のこと他言せず 太田 實 国際9期

桜南風炭火のパンの焦げ二つ 大下絹子 国際15期

春昼や欠伸こらえる前頭葉 中村建生 国際15期

組の名のあり蚕豆の花しかと 藤本武子 国際15期

春うらら加西石仏子のガイド 山下 進 国際15期

琉球の洞抜ける風仏桑花 許斐國照 食文15期

春ならひ新大関の電車道 沖本牙辺子 国際17期

水音を聞き土筆採る里帰り 香春早苗 国際17期

夜の桜ふと精霊の棲むけはひ 仲田眞輔 国際17期

妖精の吐息ふわふわ朝桜 中村富美子 国際17期

夜桜や置けば泣く児を抱きつつ 宮本眞貴子 国際17期

俯ける花に膝付く四月馬鹿 兼清久子 福祉17期

廃校の雀隠れにメモ一片 宮本公子 福祉17期

パノラマの真中に淡路薄霞 大山吉春 国際18期

海の綺羅空の碧さや桜東風 小栗恭子 福祉18期

客は皆笠かぶる花見船 潮江敏弘 福祉18期

骨のやうな流木浜に鳥帰る 野見山剛 福祉18期

砂利船の弛むとも綱目借時 今井義和 美工20期

月朧ガラス回廊影絵めく 尾崎育久 美工21期

ふらここの背を押したるや小さき手 黒木早苗 食文21期

春耕の鋤を支えに天仰ぐ 宮脇暁美 食文21期

春風にコーランを聞くナイルの夕 藤川敏子 国際22期

白蓮の闇に浮かぶは母の面 大歳敦子 福祉22期

つり橋を渡り桜を抱きに行く 大田直子 生還22期